

2026年3月8日 ガラテヤ4：21－5：1

説教題 「自由の女の子は約束によって生れた」

【今日の説教から】

アブラハムの妻サラの女奴隷のハガルのことが出てきます。

子を宿すことが出来ないのを見てサラは自分の女奴隷のもとに子をと願います。こうして与えられたのがイシュマエルです(創世記16章)。しかしそうはいって見たものの、子を宿したハガルは主人のサラを見下げるようになり、確執が起こります。

その後神様のくすしき御業により100歳のアブラハムと90歳のサラの間に子が生まれます。こうなるとハガルもイシュマエルも居場所がありません。しかし家を出ていく彼らを神様は守り、イシュマエルから出る子を一つの国民にしてくださいました。それが現在のアラブ民族です。イスラム教を創始したムハンマドはこのイシュマエルの子孫にあたると言われています。

今日の箇所にもイサクとイシュマエルのことが出てきます。イスラエルの人たちは自分たちは「生れながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではない」と言っていました。しかしパウロはこう言います。「女奴隷の子は肉によって生れたのであり、自由の女の子は約束によって生れたのであった。…ハガルといえば、アラビヤではシナイ山のことで、今のエルサレムに当る。なぜなら、それは子たちと共に、奴隷となっているからである。しかし、上なるエルサレムは、自由の女であって、わたしたちの母をさす」…肉によって、自分の努力によって救われるのではなくて、約束の契約によって救われるとパウロは語るのです。

序 アブラハムと妻サラとサラの女奴隷ハガル、子イサクとイシュマエル

創世記 16:1 アブラムの妻サラは子を産まなかった。彼女にひとりのつかえめがあった。エジプトの女で名をハガルといった。

16:2 サライはアブラムに言った、「主はわたしに子をお授けになりません。どうぞ、わたしのつかえめの所におはいりください。彼女によってわたしは子をもつことになるでしょう」。アブラムはサラの言葉を聞きいれた。

16:3 アブラムの妻サラはそのつかえめエジプトの女ハガルをとって、夫アブラムに妻として与えた。これはアブラムがカナンの地に十年住んだ後であった。

16:4 彼はハガルの所にはいり、ハガルは子をはらんだ。彼女は自分のはらんだのを見て、女主人を見下げるようになった。

16:5 そこでサラはアブラムに言った、「わたしが受けた害はあなたの責任です。わたしのつかえめをあなたのふところに与えたのに、彼女は自分のはらんだのを見て、わたしを見下げます。どうか、主があなたとわたしの間をおさばきになるように」。

16:6 アブラムはサライに言った、「あなたのつかえめはあなたの手のうちにある。あなたの好きなように彼女にきなさい」。そしてサライが彼女を苦しめたので、彼女はサライの顔を避けて逃げた。

16:7 主の使は荒野にある泉のほとり、すなわちシュルの道にある泉のほとりで、彼女に会い、

16:8 そして言った、「サライのつかえめハガルよ、あなたはどこからきたのですか、またどこへ行くのですか」。彼女は言った、「わたしは女主人サライの顔を避けて逃げているのです」。

16:9 主の使は彼女に言った、「あなたは女主人のもとに帰って、その手に身を任せなさい」。

16:10 主の使はまた彼女に言った、「わたしは大いにあなたの子孫を増して、数えきれないほどに多くしましょう」。

16:11 主の使はまた彼女に言った、「あなたは、みごもっています。あなたは男の子を産むでしょう。名をイシマエルと名づけなさい。主があなたの苦しみを聞かれたのです」。

16:12 彼は野ろばのような人となり、その手はすべての人に逆らい、すべての人の手は彼に逆らい、彼はすべての兄弟に敵して住むでしょう」。

16:13 そこで、ハガルは自分に語られた主の名を呼んで、「あなたはエル・ロイです」と言った。彼女が「ここでも、わたしを見ていられるかたのうしろを拝めたのか」と言ったことによる。

16:14 それでその井戸は「ベエル・ラハイ・ロイ」と呼ばれた。これはカデシとベレデの間にある。

16:15 ハガルはアブラムに男の子を産んだ。アブラムはハガルが産んだ子の名をイシマエルと名づけた。

16:16 ハガルがイシマエルをアブラムに産んだ時、アブラムは八十六歳であった。

17:15 神はまたアブラムに言われた、「あなたの妻サライは、もはや名をサライといわず、名をサラと言いなさい」。

17:16 わたしは彼女を祝福し、また彼女によって、あなたにひとりの男の子を授けよう。わたしは彼女を祝福し、彼女を国々の民の母としよう。彼女から、もろもろの民の王たちが出るであろう」。

17:17 アブラムはひれ伏して笑い、心の中で言った、「百歳の者にどうして子が生れよう。サラはまた九十歳にもなって、どうして産むことができようか」。

17:18 そしてアブラムは神に言った、「どうかイシマエルがあなたの前に生きながらえませうように」。

17:19 神は言われた、「いや、あなたの妻サラはあなたに男の子を産むでしょう。名をイサクと名づけなさい。わたしは彼と契約を立てて、後の子孫のために永遠の契約としよう」。

17:20 またイシマエルについてはあなたの願いを聞いた。わたしは彼を祝福して多くの子孫を得させ、大いにそれを増すであろう。彼は十二人の君たちを生むであろう。わたしは彼

を大いなる国民としよう。

17:21 しかしわたしは来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てるであろう」。

17:22 神はアブラハムと語り終え、彼を離れて、のぼられた。

17:23 アブラハムは神が自分に言われたように、この日その子イシマエルと、すべて家に生れた者およびすべて銀で買い取った者、すなわちアブラハムの家の人々のうち、すべての男子を連れてきて、前の皮に割礼を施した。

17:24 アブラハムが前の皮に割礼を受けた時は九十九歳、

17:25 その子イシマエルが前の皮に割礼を受けた時は十三歳であった。

17:26 この日アブラハムとその子イシマエルは割礼を受けた。

17:27 またその家の人々は家に生れた者も、銀で異邦人から買い取った者も皆、彼と共に割礼を受けた。

18:1 主はマムレのテレビンの木のかたわらでアブラハムに現れられた。それは昼の暑いころで、彼は天幕の入口にすわっていたが、

18:2 目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。彼はこれを見て、天幕の入口から走って行って彼らを迎え、地に身をかがめて、

18:3 言った、「わが主よ、もしわたしがあなたの前に恵みを得ているなら、どうぞしもべを通り過ぎさないでください。

18:4 水をすこし取ってこさせますから、あなたがたは足を洗って、この木の下でお休みください。

18:5 わたしは一口のパンを取ってきます。元気をつけて、それからお出かけください。せっかくしもべの所においでになったのですから」。彼らは言った、「お言葉どおりにしてください」。

18:6 そこでアブラハムは急いで天幕に入り、サラの所に行って言った、「急いで細かい麦粉三セヤをとり、こねてパンを造りなさい」。

18:7 アブラハムは牛の群れに走って行き、柔らかな良い子牛を取って若者に渡したので、急いで調理した。

18:8 そしてアブラハムは凝乳と牛乳および子牛の調理したものを取って、彼らの前に供え、木の下で彼らのかたわらに立って給仕し、彼らは食事した。

18:9 彼らはアブラハムに言った、「あなたの妻サラはどこにおられますか」。彼は言った、「天幕の中です」。

18:10 そのひとりが言った、「来年の春、わたしはかならずあなたの所に帰ってきましょう。その時、あなたの妻サラには男の子が生れているでしょう」。サラはうしろの方の天幕の入口で聞いていた。

18:11 さてアブラハムとサラとは年がすすみ、老人となり、サラは女の月のものが、すでに止まっていた。

18:12 それでサラは心の中で笑って言った、「わたしは衰え、主人もまた老人であるのに、わたしに楽しみなどありえようか」。

18:13 主はアブラハムに言われた、「なぜサラは、わたしは老人であるのに、どうして子を産むことができようかと言って笑ったのか。」

18:14 主にとって不可能なことがありますでしょうか。来年の春、定めの際に、わたしはあなたの所に帰ってきます。そのときサラには男の子が生まれているでしょう」。

18:15 サラは恐れたので、これを打ち消して言った、「わたしは笑いません」。主は言われた、「いや、あなたは笑いました」。

21:1 主は、さきに言われたようにサラを顧み、告げられたようにサラに行われた。

21:2 サラはみごもり、神がアブラハムに告げられた時になって、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。

21:3 アブラハムは生れた子、サラが産んだ男の子の名をイサクと名づけた。

21:4 アブラハムは神が命じられたように八日目にその子イサクに割礼を施した。

21:5 アブラハムはその子イサクが生れた時百歳であった。

21:6 そしてサラは言った、「神はわたしを笑わせてくださった。聞く者は皆わたしのことで笑うでしょう」。

21:7 また言った、「サラが子に乳を飲ませるだろうと、だれがアブラハムに言い得たであろう。それなのに、わたしは彼が年とってから、子を産んだ」。

21:8 さて、おさなごは育って乳離れした。イサクが乳離れした日にアブラハムは盛んなふるまいを設けた。

21:9 サラはエジプトの女ハガルのアブラハムに産んだ子が、自分の子イサクと遊ぶのを見て、

21:10 アブラハムに言った、「このはしためとその子を追い出してください。このはしための子はわたしの子イサクと共に、世継となるべき者ではありません」。

21:11 この事で、アブラハムはその子のために非常に心配した。

21:12 神はアブラハムに言われた、「あのわらべのため、またあなたのはしためのために心配することはない。サラがあなたに言うことはすべて聞きいれなさい。イサクに生れる者が、あなたの子孫と唱えられるからです。

21:13 しかし、はしための子もあなたの子ですから、これをも、一つの国民とします」。

21:14 そこでアブラハムは明るる朝はやく起きて、パンと水の皮袋とを取り、ハガルに与えて、肩に負わせ、その子を連れて去らせた。ハガルは去ってベエルシバの荒野にさまよった。

21:15 やがて皮袋の水が尽きたので、彼女はその子を木の下におき、

21:16 「わたしはこの子の死ぬのを見るに忍びない」と言って、矢の届くほど離れて行き、子供の方に向いてすわった。彼女が子供の方に向いてすわったとき、子供は声をあげて泣いた。

21:17 神はわらべの声を聞かれ、神の使は天からハガルを呼んで言った、「ハガルよ、どうしたのか。恐れてはいけない。神はあそこにいるわらべの声を聞かれた。

21:18 立って行き、わらべを取り上げてあなたの手に抱きなさい。わたしは彼を大いなる国民とするであろう」。

21:19 神がハガルの目を開かれたので、彼女は水の井戸のあるのを見た。彼女は行って皮袋に水を満たし、わらべに飲ませた。

21:20 神はわらべと共にいまし、わらべは成長した。彼は荒野に住んで弓を射る者となった。

21:21 彼はパランの荒野に住んだ。母は彼のためにエジプトの国から妻を迎えた。

序 肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださった

ローマ 8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

8:4 これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。

8:6 肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。

序 真理は、あなたがたに自由を得させる

ヨハネ 8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

皆様おはようございます。

昨日は雪やあられの日でした。三寒四温とは言いますが、気温差のあるこの頃、どうぞご自愛ください。

さて、イースターの御言葉に入る前の最後のガラテヤ書です。4章の終わりまでやってまいりました。今日は驚くべとたとえでパウロは約束の契約による救い、自由を得させる救いについて語っています。

4:21 律法の下にとどまっていたいと思う人たちよ。わたしに答えなさい。あなたがたは律法の言うところを聞かないのか。

4:22 そのしるすところによると、アブラハムにふたりの子があったが、ひとりには女奴隷から、ひとりには自由の女から生れた。

4:23 女奴隷の子は肉によって生れたのであり、自由の女の子は約束によって生れたのであった。

4:24 さて、この物語は比喩としてみられる。すなわち、この女たちは二つの契約をさす。そのひとりにはシナイ山から出て、奴隷となる者を産む。ハガルがそれである。

4:25 ハガルといえば、アラビヤではシナイ山のことで、今のエルサレムに当る。なぜなら、それは子たちと共に、奴隷となっているからである。

4:26 しかし、上なるエルサレムは、自由の女であって、わたしたちの母をさす。

4:27 すなわち、こう書いてある、／「喜べ、不妊の女よ。声をあげて喜べ、産みの苦しみを知らない女よ。ひとり者となっている女は多くの子を産み、／その数は、夫ある女の子らよりも多い」。

4:28 兄弟たちよ。あなたがたは、イサクのように、約束の子である。

アブラハムのもとに二人の子がいました。それはイサクとイシュマエルです。

アブラハムの妻サラの女奴隷のハガルのことが出てきます。

子を宿すことが出来ないのを見てサラは自分の女奴隷のもとに子をと願います。こうして与えられたのがイシュマエルです(創世記16章)。しかしそうはいって見たものの、子を宿したハガルは主人のサラを見下げるようになり、確執が起こります。

その後神様のくすしき御業により100歳のアブラハムと90歳のサラの間に子が生まれます。こうなるとハガルもイシュマエルも居場所がありません。しかし家を出ていく彼らを神様は守り、イシュマエルから出る子を一つの国民にしてくださいました。それが現在のアラブ民族です。イスラム教を創始したムハンマドはこのイシュマエルの子孫にあたると言われています。

今日の箇所にもイサクとイシュマエルのことが出てきます。イスラエルの人たちは自分たちは「生れながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではない」と言っていました。しかしパウロはこう言います。「女奴隷の子は肉によって生れたのであり、自由の女の子は約束によって生れたのであった。…ハガルといえば、アラビヤではシナイ山のことで、今のエルサレムに当る。なぜなら、それは子たちと共に、奴隷となっているからである。しかし、上なるエルサレムは、自由の女であって、わたしたちの母をさす」…肉によって、自分の努力によって救われるのではなくて、約束の契約によって救われるとパウロは語るのです。

生まれることが信じられないほどの出来事が実際に起こりました。人の行いにも努力にもよらず、計画や願いによらず、ただ神様のお約束が成就する形でイサクが与えられました。このことが律法による義と恩寵なる契約、イエスキリストによって与えられる自由を得させる契約と対比されています。

4:29 しかし、その当時、肉によって生れた者が、霊によって生れた者を迫害したように、今でも同様である。

4:30 しかし、聖書はなんと言っているか。「女奴隷とその子とを追い出せ。女奴隷の子は、自由の女の子と共に相続をしてはならない」とある。

4:31 だから、兄弟たちよ。わたしたちは女奴隷の子ではなく、自由の女の子なのである。  
5:1 自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながれてはならない。

イザヤ 9:1 闇の中を歩む民は、大いなる光を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

9:2 あなたは深い喜びと／大きな楽しみをお与えになり／人々は御前に喜び祝った。刈り入れの時を祝うように／戦利品を分け合って楽しむように。

9:3 彼らの負う軛、肩を打つ杖、虐げる者の鞭を／あなたはミディアンの日のように／折ってくださった。

9:4 地を踏み鳴らした兵士の靴／血にまみれた軍服はことごとく／火に投げ込まれ、焼き尽くされた。

9:5 ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君」と唱えられる。

9:6 ダビデの王座とその王国に権威は増し／平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって／今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。

「万軍の主の熱心がこれを成し遂げる」

私たちを導いてくださる主のご真実を今週も味わい、自らの力に及ばない深いところで主が働いて、私たちを自由の御霊で導いていてくださることに感謝し、祈り委ねて導かれたいと願います。

2 コリント 3:1 わたしたちは、またもや自分を推薦し始めているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたへの推薦状、あるいはあなたがたからの推薦状が、わたしたちに必要なののでしょうか。

3:2 わたしたちの推薦状は、あなたがた自身です。それは、わたしたちの心に書かれてお

り、すべての人々から知られ、読まれています。

3:3 あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。

3:4 わたしたちは、キリストによってこのような確信を神の前で抱いています。

3:5 もちろん、独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。わたしたちの資格は神から与えられたものです。

3:6 神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。

3:7 ところで、石に刻まれた文字に基づいて死に仕える務めさえ栄光を帯びて、モーセの顔に輝いていたつかの間の栄光のために、イスラエルの子らが彼の顔を見つめないほどであったとすれば、

3:8 霊に仕える務めは、なおさら、栄光を帯びているはずではありませんか。

3:9 人を罪に定める務めが栄光をまもっていたとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ちあふれています。

3:10 そして、かつて栄光を与えられたものも、この場合、はるかに優れた栄光のために、栄光が失われています。

3:11 なぜなら、消え去るべきものが栄光を帯びていたのなら、永続するものは、なおさら、栄光に包まれているはずだからです。

3:12 このような希望を抱いているので、わたしたちは確信に満ちあふれてふるまっており、

3:13 モーセが、消え去るべきものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、自分の顔に覆いを掛けたようなことはしません。

3:14 しかし、彼らの考えは鈍くなってしまいました。今日に至るまで、古い契約が読まれる際に、この覆いは除かれずに掛かったままなのです。それはキリストにおいて取り除かれるものだからです。

3:15 このため、今日に至るまでモーセの書が読まれるときは、いつでも彼らの心には覆いが掛かっています。

3:16 しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。

3:17 ここでいう主とは、“霊”のことですが、主の霊のおられるところに自由があります。

3:18 わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。

ヤコブ 1:19 わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。

1:20 人の怒りは神の義を実現しないからです。

1:21 だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御

言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

1:22 御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。

1:23 御言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。

1:24 鏡に映った自分の姿を眺めても、立ち去ると、それがどのようなであったか、すぐに忘れてしまいます。

1:25 しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行う人です。このような人は、その行いによって幸せになります。

1:26 自分は信心深い者だと思っても、舌を制することができず、自分の心を欺くならば、そのような人の信心は無意味です。

1:27 みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ることを、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です。

使徒 17:28 皆さんのうちのある詩人たちも、／『我らは神の中に生き、動き、存在する』／『我らもその子孫である』と、／言っているとおりです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです(ローマ8章)」との恵みに感謝いたします。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」とのお言葉にも感謝いたします。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン